

大阪マイペンライ 第17回総会

2009. 5. 15
PLP 会館大会議室



「国際ボランティア貯金」配分金による15周年記念事業のモニタリングツアーでの様子

アジア保育教育交流推進実行委員会

大阪マイペンライ2009年度第17回総会議案

活動日誌	2
第1号議案 活動の経過と方針	
1 マイペンライのこれから	3
2 サワディ基金のとりくみ	3
3 来日招聘研修のとりくみ	4
4 スタディツアーのとりくみ	6
5 こどもスタディツアーのとりくみ	6
6 絵本プロジェクトのとりくみ	6
7 アジアのNGO団体などとの連携したとりくみ	7
8 会員拡大のとりくみ、財政確立のとりくみ	7
9 15周年記念事業に続く事業の継続について	7
10 その他	13
第2号議案 2008年度決算と2009年度予算案	
一般会計決算と予算	13
サワディ基金収支 絵本プロジェクト収支	14
監査結果	15
第3号議案 2009年度役員体制案について	16
第4号議案 「国際ボランティア貯金」配分金事業にかかる特別会計の設置について	17
第5号議案 その他	
資料：アジア保育・教育交流推進実行委員会申し合わせ（規約）	19

記念講演の部

アルニー・プロムナー氏（シーカ・アジア財団事務局長）

「タイの現状と研修事業の成果と課題（仮題）」

アルニーさんは長年にわたって、バンコクのクロントイ地区を中心に活動を続けており、当会の活動にも多大なご協力をいただいています。また、昨年度の「国際ボランティア貯金」配分金の助成による「15周年記念事業」の具体化に積極的な役割を果たしていただきました。

2008年度活動日誌

2008年

- 4月24日(木) タイ研修事業打合せ会議
- 4月25日(金) 第16回総会
- 5月19日(月) ~国際ボランティア貯金配分金助成事業第1回タイ研修事業
- 6月5日(木) 招聘研修打ち合わせ会議
- 6月25日(水) 招聘研修打ち合わせ会議
- 7月5日(土)~19日(土)招聘研修
- 7月6日(日) 招聘研修オリエンテーション
- 7月7日(月)~9日(水)招聘研修受け入れ(2カ所)
- 7月9日(水)~11日(金)招聘研修受け入れ(2カ所)
- 7月14日(月)~16日(水)招聘研修受け入れ(2カ所)
- 7月17日(木) 招聘研修表敬訪問
- 7月17日(金) 多文化共生セミナー
- 7月27日(日)~8月3日(日) 子どもスタディツアー
- 8月5日(火)~9月30日(火) ムアイさん(シーカ・アジア財団)が来阪し各地で研修
- 9月19日(金) 08年度第1回実行委員会

報告事項(15周年記念第16回総会、15周年記念事業について、08年度招聘研修、15周年記念第16回総会の開催について、15周年記念事業について、子どもスタディツアー、ムアイさん(SVAタイランド)の来阪研修)

協議事項(15周年記念事業の進捗状況と今後の事業の具体化について、09年度「国際ボランティア貯金配分金」への新たな申請について、スタディツアーの実施について)

- 9月30日(火) 「国際ボランティア貯金助成金」へ2つの事業を申請
- 10月4日(土) 環境フェスティバル出店
- 10月12日(日)~国際ボランティア貯金配分金助成事業第1回ターソンヤン郡研修事業
- 11月19日(月)~26日(月)大阪市職民生支部招聘研修
- 12月4日(木) スタディツアー会議(中止を確認)

2009年

- 1月16日(金) 08年度第2回実行委員会
- 報告事項(09年度「国際ボランティア貯金配分金」への新たな申請について、15周年記念・第2回ターソンヤン郡研修事業をはじめとした事業の進捗状況、スタディツアーの中止について、財政報告)
- 協議事項(15周年記念事業モニタリングツアーの実施について、年間事業計画日程)
- 3月19日(木) 08年度第3回実行委員会
- 報告事項(15周年記念事業モニタリングツアーの実施について)
- 協議事項(「国際ボランティア貯金配分金」への申請の結果について、第17回総会について、15周年記念事業の完了報告書の作成について、サワディ基金会計報告、今後の日程)
- 4月23日(木) 08年度第4回実行委員会
- 報告事項(「国際ボランティア貯金配分金」への申請の結果について)
- 協議事項(2009年度第17回総会について、学生寮・保育園改修事業現地設計調査について、招聘研修について、子どもツアーについて)
- 5月1日(土)~8日(金) 学生寮建設及び保育園改修事業でスタッフ派遣

とりくみ予定

- 5月15日(金) 第17回総会
- 7月4日(土)~18日(土)09年度招聘研修
- 7月26日(日)午前出発~8月2日(日)早朝帰国 子どもツアー

第1号議案 活動の経過と方針

1 大阪マイペンライのこれまでとこれから

大阪マイペンライは1993年4月に結成されて以来、部落解放同盟大阪府連合会、大阪府教職員組合、自治労大阪府本部の3組織を中心としながら、多くの団体・グループ・個人の皆さんの支えをいただき、取り組みを進めてきました。また、日本においてはシャンティ国際ボランティア会(SVA)、タイ・カンボジア・ラオスではドゥアン・プラティープ財団(DPF)やシーカ・アジア財団の協力・連携のもと、活動を進めています。

大阪マイペンライ結成の契機は、1990年の国際識字年でした。「国際化」が叫ばれ、「日本の国際貢献」「アジアの中の日本(と日本人)」が大きなテーマになっている中、私たちは、それぞれの団体が反差別・人権擁護の立場で国際交流を進めてきましたが、国際識字年を期に活発化したアジア太平洋各地の識字運動・民衆教育運動との交流が拡大し、草の根の人権教育関係者のネットワークづくりが進められていることに注目しました。そこで私たちは、大阪の部落解放運動や同和保育・教育の経験を積極的に紹介し、タイ・インドシナ地域をはじめとするアジアの民衆教育運動との相互交流・支援を活発化させることを目的に、結成しました。

今、地球上には約10億人の成人識字者(読み書きの機会を奪われた人)とともに、1億人の学校へ行けない子どもたちが存在しています。その大半(4分の3)は、タイ・インドシナ地域をはじめとするアジアの国・地域です。くわえて年間1200万人もの5才未満の幼い子どもたちが、風邪や下痢やはしかや栄養不良、飢餓などで死んでいます。アジアのスラムや農村の子どもたちは、貧困と差別の中で生きる権利すらおびやかされているのです。国連の子どもの権利条約を具体化し、アジアの各地に学校や保育所とともに地域の教育・生活・福祉の環境を整備することが緊急の課題であり、この面でこそ日本の「国際貢献」が求められています。

大阪マイペンライはこれまで、人材育成を目的とした「サワディ基金(奨学金)」の取り組み、結成以来、継続して取り組んできた相互交流プロジェクト(招聘研修、スタディツアー)、翻訳絵本の提供を目的とし、活動が着実に広がっている絵本プロジェクト、5周年事業「保育・教育セミナー」10周年事業「障害児保育・障害者の生活から学ぶワークショップ」、「自立をめざすアジアの子どもたちの国際交流事業」などに取り組み、その成果とネットワークは広がってきています。08年には、15周年を迎えるにあたって「国際ボランティア貯金配分金」の助成を受け、タイのシーカアジア財団とともに保育園スタッフに対する研修事業の実施を進めました。

04年12月、インドネシア・スマトラ島沖での大地震、津波によって南タイでも大きな被害を受け、多くの人たちが犠牲となりました。これらの災害に対して緊急の支援を取り組みましたが、とりくみを通じ、タイ国内の少数民族や、被差別マイノリティ、最下層の人々・子どもたちに十分な支援が届いていない現状が明らかになっており、今後も現地の団体とも連携し、取り組みを進めていく必要があります。

こうした状況をふまえ、私たちは、支援する側、される側という一方的なものではなく、一人一人お互いの顔が見える関係、お互いに学びあい相互に助け高めあえる関係として、この間の活動を土台に、より一層の広がり高めをめざし、今後の活動を進めていきます。

2008年には結成15周年を記念して、「タイ研修事業」をシーカ・アジア財団とともに実施しましたが、この中で、タイのスラムや農村の現状を目の当たりにし、新たなニーズを実感しました。そこで、昨年を引き続いて「国際ボランティア貯金」へ2つの新たな申請を行い、配分金の決定を得て、「少数民族の初等教育整備のための学生寮建設及び保育園の改修〔タイ〕」と「スラム地区、少数民族居住地区の保育園・図書館スタッフのスキルアップ研修の実施及び保育・幼児教育センターの設置〔タイ〕」を実施することとなりました。

今後もシーカアジア財団との関係を密にし、現地のニーズに即した、お互いの顔が見える活動の推進に向けて努力していきます。

2 サワディ基金のとりくみ

(1) とりくみの経過

サワディ基金は1993年に設立し、94年に支給を開始し、本格的にスタートしました。この基金は、タイのNGOの職員で農村やスラムの保育所・幼稚園で働きながら、夜間の専門学校や大学で学んで保育士・教師などの資格取得を目指す若者たちに対して、年額1万バーツ(約3万円)を支給することでスタートしました。

これまでに、94年に70万円、96年に50万円、98年に50万円、2001年に50万円、2003年に200万円を奨学資金として現地のNGOに送り、運用を委託しました。現時点で、基金は現地からの報告によると、451289バーツ(約1579000円)残っています。奨学生が生き生きと活動し、勉学の励んでいる姿を受け止め、この活動を継続していくことの重要性を確認しています。

(2) 財源の確保

この奨学金の財源は、団体会員や個人会員からのサワディ基金に寄せられた寄付や、アジアの農村やスラムの人々の手作りのクラフト販売で得た差益を積み立てて、充当しています。これらの資金を、タイのNGOで

あるSVA・DPFに運用を委託し、給付しています。引き続き、会員へ協力を呼びかけ、寄付を受け付けるとともに、基金が一定額に達していることから、クラブ販売の差益については、大阪マイペンライ活動全体へ運営資金とします。

(3) 奨学金の給付方式について

これまで多くの方からサワディ基金に協力をいただき、合計で約370万円という多額の基金を留め置いている現状もあり、今後も奨学金の「給付」と言う形によって有効に活用することとします。

(4) 奨学生の選考など基金の運用について

奨学生の選考、奨学資金の運用などについてはSVA（シャンティ国際ボランティア会）・シーカ・アジア財団（SAF）・DPF（ドゥアン・プラティープ財団）の協力を得ながら、運用規定に基づいて給付することとします。

(5) サワディ基金の給付の状況

2008年度 奨学生 支給報告

所属	氏名	課程	学校名	支給額(パーツ)
シーカ・アジア財団	ウィタンユター ウンジャイ	大 学 4年	ラチャパットチェンライ	15,000
シーカ・アジア財団	ウィパー スアガ ームイアム	大 学 3年	シウコンポリハートラキット	15,000
ドゥアン・プラティ ープ財団	パワナー ルアン マハーモンコン	大 学 4年	ラチャパットジャンカセーム	15,000
ドゥアン・プラティ ープ財団	エームオン・チャ ンマニー	大 学 1年	ラチャパットバーンソムデットジャオ プレーヤー	15,000

(6) サワディ基金の今後の活用について

現在の基金は現地のNGOスタッフへの奨学金として支給していますが、その運用状況を把握し、今後の有効活用のための検討を進めることとします。

15周年記念事業に続く「国際ボランティア貯金」配分金事業を進めるにあたって、その資金の充当するためサワディ基金を一時取りくずすこととします。

3. 招聘研修の経過と取り組み

第16回招聘研修は、7月5日（土）～19日（土）の2週間、タイ・カンボジアからのゲストを招き実施され、府内各地で交流が展開されました。ゲストは4名で、SVAカンボジア事務所のパルさん、SVAタイランドの松尾久美さんが通訳を担当しました。

カンボジア、タイから事前に大阪での研修希望が届き、その期待に応えようと受入れ組織が集まったの調整会議を開き、受入れ組織内においても細やかな調整をいただき、楽しい交流が展開されました。

① 受け入れいただいた団体

- 自治労大阪府本部豊中市職員労働組合（カンボジア）
- 自治労大阪府本部大阪市職員労働組合民生支部（タイ）
- 大阪府教組守口市教職員組合（タイ）
- 大阪府教組大阪市教職員組合（カンボジア）
- 部落解放同盟大阪府連合会荒本支部（カンボジア）
- 部落解放同盟大阪府連合会加島支部（タイ）

② 2008年大阪マイペンライ招聘ゲストプロフィールと研修希望について

	タ イ		カ ン ボ ジ ア	
通 訳 同 行	松尾久美(SVAタイランド スタッフ) 大阪マイペンライ運営委員 2007年2月 SVA入職		チェア・パル（通訳：カンボジア人 男性） 1999年文部科学省の奨学金を受け来日 関西国際日本語学校卒業 東京工科専門学校卒業 2002年7月 SVA入社	
名 前	シーカ・アジア財団 プラディッポン・テ ィワナーンさん（ラン さん）34歳 男性	ドゥアン・ プラティープ財団 チャラウイ・ペッチャバ ンさん（ジムさん） 35歳 女性	シャンティ 国際ボランティア会 メアス・シレンさん （ライムさん）36歳 女性	シャンティ 国際ボランティア会 シヴ・ホエウンさん （シヴさん）39歳 男性

職務	シーカアアジア財団 (SVA 現地法人) パヤオ県シャンティ学 生寮の指導員 4年 目。モン族。大学卒業 後、企業・モン族支援 NGOなどを経て、S A Fへ入職。ラン・ スタッフは180人奨学 生の顔と家への道のり を把握し、関係作りに 努力してきている。マ イペンライ子どもツア ーの際にも活躍してい る。	ドゥアン・プラティープ 財団 DPF 幼稚園教諭 14年目 05年 バンコク都地域 大学短期部幼児教育科修 了 94年 DPF 幼稚園用務 員として入職 同年 保育助手 05年より教諭として勤 め現在に至る	SVA カンボジア事務所 経理コーディネーター 17年目 「ライムさん」との愛称 でスタッフから呼ばれ、 いつも笑顔を決やさず穏 やかで、お姉さんの存在 です。 カンボジア事務所で一 番長く勤めているスタッ フです。	SVA カンボジア事務所 図書館事業インストラク ター 2年目 07年からの勤務というこ とで、SVAでの経験はまだ 浅いですが、子供達の前 に立つと芸人さんのよう に見事なパフォーマンスで 子供達の目を釘付けにする 人気者です。
研修 希望	<p>《タイ》 プラディッポン・ティワーン：現在の活動に活かせることを何でも学びたい。特に、学生寮のような施設の見学ができればありがたい。また、他団体及び地域との調整、活動計画立案、情報収集の業務などについて。</p> <p>チャラウイ・ペッチャパン：数字のゲームによる思考法の発育訓練。保健指導について。人形劇や絵本を教育に取り入れる方法について。</p> <p>《カンボジア》 メアス・シレン：子ども教育。日本の文化と社会。日本での暮らし。日本での社会問題。日本料理。 シヴ・ホエウン：図書館運営、アレンジメント。読み聞かせ。絵本の使い方。子どもの注目を引くためのゲーム遊び。図書館とのコミュニティの関わり。子どもが本を読む習慣をつけるためには。子どもの音楽。日本の文化、社会など</p>			

2008年(第16回)大阪マイペンライ招聘研修スケジュール 08年7月5日(土)～19日(土)

	カンボジア	タイ
7月5日(土)	7:30 関西空港着 関西空港着 『遊べる絵本展 DANDAN』見学(ATC ITM棟2F 11:00～17:00) マイペンライ歓迎会(中島宅)	
6日(日)	14:00 オリエンテーション 老松事務所	
7日(月)	大阪府教組大阪市教職員組合 加島小学校 加島第1保育所の見学交流 加島地域 フィールドワーク 市教組青年部と交流	大阪府教組守口市教職員組合 市民体育館見学(施設設備や企画・運営について) 市民球場見学(施設設備や企画・運営について) サンヨーミュージアム見学(家電製品に関連して)
8日(火)	大阪市立中央図書館 施設説明と見学 キッズプラザ大阪 大阪見学 通天閣、新世界	庭窪小学校訪問 児童集会 1～6年生と全体交流(民族衣装など) 5年生との個別交流(「食」「お米」の話) 2時間目・3時間目 授業見学 4時間目 5・6年生との交流 昼食 「6年生と一緒に食べます」 生涯学習センター内見学 図書フロアの事業について「出前講座」を中心に プラネタリウム見学 夕食交流会(庭窪小学校関係者なども招いて)
9日(水)	10:00 コリアタウン見学 自治労大阪府本部豊中市職員労働組合 豊伊クリーンランド見学(清掃の事業所) スカイランド HARADA 見学(施設と飛行機)	もりぐち歴史館(旧中西家住宅) 見学 自治労大阪府本部大阪市職員労働組合民生支部 西九条保育所 見学交流 支部歓迎会
10日(木)	保育所見学と交流 保育所で給食 図書館見学と交流 夕食交流会	大阪市立中央児童相談所見学 大阪市立児童院見学
11日(金)	10:00 障害者施設または子育て支援センター	十三保育所見学 自治労大阪府本部へ 合同で市内見学 保育部会交流会 カンボジア・タイの取り組みを紹介
12日(土)	フリー	ホームステイ(豊中市庄内東町:樽井宅)
13日(日)	京都観光 同行:大阪市従業員組合民生支部	ホームステイ(豊中市庄内東町:樽井宅)
14日(月)	部落解放同盟大阪府連合会荒本支部	部落解放同盟大阪府連合会加島支部

	東大阪市表敬訪問（市役所：市長表敬） 東大阪市荒本子育て支援センター見学・交流 荒本地域フィールドワーク 生きがい事業団「かどや」にて休息 夕食（谷奥夫妻、地元保育保護者会）	加島第1保育所見学 地区の概要説明とフィールドワーク 加島支部歓迎会
15日（火）	東大阪市立意岐部中学校（授業参加？） 東大阪市立意岐部東小学校 市内観光 生きがい事業団で夕食	加島小学校交流 加島小学校民俗教室交流 西岡宅で夕食交流会 中学校太鼓練習交流《07年アジア子ども文化祭に出場予定だった》
16日（水）	府立中央図書館 見学	キッズプラザ大阪見学
	手作り絵本ワークショップ 講師 加藤啓子さん	大阪市立子育ていろいろ相談センター
17日（木）	大阪府表敬訪問 自治労大阪府職表敬訪問 大阪市表敬訪問 大阪府教職員組合表敬訪問 多文化共生セミナー PLP5F	
18日（金）	フリー お別れ会	
19日（土）	関西空港発 タイ・カンボジアスタッフ帰国	

4. 08スタディツアーの中止と2009年度の実施に向けて

(1) 08年の12月14日出発で実施する予定で、準備を進めていたスタディツアーについて、タイ国内の政治情勢が混乱していることを理由に中止することとしました。ツアーに応募いただいた皆さんに大変ご迷惑をおかけしたことをあらためてお詫び致します。

スタディツアーの中止については、出発前の12月初めの時点で、「空港占拠が解除されたものの、政権が崩壊し、現在内閣が存在しない状況となっており、政治情勢の混乱が継続している。また、空港の再開の可能性はあるが、政治の混乱が不測の事態を招きかねない状況」と判断し、中止に至ったものです。この判断については、バンコクのシーカ・アジア財団からの情報や助言に基づいたものです。また、カンボジアへのツアーについても「バンコクを経由して行かざるを得ず、最終日のバンコクでの交流・見学も困難」であり、西タイコース、カンボジアコースとも中止としました。

参加費については全額返還しました。

(2) ターソンヤン郡のモニタリングツアーについて

西タイコースへのツアーで実施する予定であった、「国際ボランティア貯金配分金」による研修事業についてのモニタリングについては、現地のNGO団体と調整し、現地の情勢を見ながら実施する方向で検討するとし、2月に実施しました。

(3) 2009年度の取り組み

SVAと訪問先・日程を検討しながら、2009年度スタディツアーについて引き続き取り組むこととする。また、今年についても、「国際ボランティア貯金」配分金事業の「学生寮建設及び保育園改修事業」のモニタリングツアーと合同で実施する予定です。

5 こどもスタディツアーのとりくみ

(1) 2008年度の取り組み

タイの北部、モン族の人々の暮らすセンサイ村。この自然と共存する村と日本の子どもたちが出会う旅。それが大阪マイペンライ子どもスタディツアーです。1998年に第1回を実施し、2008年度は2名の参加で実施しました。

事前学習会 参加者の1人が遠隔地からの参加であったため、実施せず。

日程 7月27日（日）～8月3日（日）

交流先 北タイ パヤオ センサイ村 サンティスック村

参加者 2名 同行 SVA松尾久美さん

08子どもツアー参加名簿 山下晋平さん、亀崎 綾乃さん

(2) 2009年度の取り組み

SVAと連携し、夏休みの時期に取り組むこととします。

日程の予定 7月26日（日）～8月2日（日）

6 絵本プロジェクトのとりくみ

定着した5ヶ所の拠点での翻訳絵本作りでは、ボランティアの参加者の数は決して多くありませんが着実に、そして楽しんで、作業を続けています。また、参加者の中からスタディツアーへ参加されたり、逆にツアー参加を機に絵本作りにこられたりと、いずれも子どもたちに絵本を！という気持ちをいただいていると思ひ

ます。このように、多くの皆さんのご協力を得て進めている絵本プロジェクトの成果は確実に現地に届いています。

自治労府本部でのボランティアによる作業をはじめ、5ヶ所の拠点での翻訳絵本作り、多くのボランティアによって作られた翻訳絵本、国際理解教育の一環として取り組まれている学校での翻訳絵本作りや市民講座などによって作られた翻訳絵本は、7月の『こどもスタディツアー』のメンバーが、そして、12月スタディーツアーで、カンボジア・タイを訪れ、現地の様子を肌で感じ、翻訳絵本を自らの手で届けてきました。

多くの皆さんのご協力を得て進めている絵本プロジェクトの成果は確実に現地に届いています。今後も絵本を通じて人と人がつながり、子どもたちにとっての本当の支援となるよう活動を進めていきたいと思ひます。

〔ボランティアグループ〕

自治労大阪府本部（大阪マイペンライ） 毎月第3木曜日 P L P 会館
（自治労大阪市従業員労働組合民生支部、一般市民、高校生などの皆さんが参加しています）
「アンコー会」（浪速絵本グループ）第2金曜日午後6時 谷町九丁目アベビル
マイペンライ茨木 カンボジアに絵本を送る富田林連絡会
マイペンライ兵庫 ポップあすか（飛鳥地区で絵本を作る会）
自治労大阪市職員労働組合北区役所支部 その他 たくさんのボランティアの方々による

7 アジアのNGO団体などとの連携したとりくみ

大阪マイペンライは日本やアジアのさまざまなNGO団体に協力いただき、また、連携して取り組みを進めてきました。これからも、ともに大阪とアジアの交流が深まることをめざして取り組みを進めます。

8 会員拡大のとりくみ、財政確立のとりくみ

（1）会員の状況

大阪マイペンライは解放同盟大阪府連・大阪府教組・自治労大阪の組織的協力を得つつ、団体会員、個人会員の協力、自主的な参加によって15年間の取り組みを進めてきました。また、財政的にもこれらの組織・個人に支えられて活動を進めることができました。今後も、組織的な協力を得つつ、個人の自主的な参加という、大阪マイペンライ的な活動スタイルを維持しながら、進めていくこととします。

会の現状としては、2009年3月現在の個人会員は122名、団体会員は24団体と、現状維持にとどまっております、会員拡大の取り組みを進めます。

（2）財政

繰越金と預り金を除いた収入に対して、会費の占める割合は28%、セミナー等への参加費が12%、クラフト売上が16%となっています。会費は安定した財政基盤であり、会員の拡大を通じて、財政的な支えの拡充を図っていかねばなりません。2003年度からクラフト売上金を一般収入に繰り入れることとしましたので、さまざまな機会を通じてクラフト販売による収入の増をめざします。

（3）組織基盤の確立

引き続き3団体をはじめとした団体会員との連携、100名を超える個人会員との連携を強め、会の基盤の充実に努めることとします。その延長線上に、特定非営利法人（NPO）化に向けた準備を進めます。

（4）通信の発行

第67号（08.6.10）第68号（08.7.5）第69号（08.8.28）第70号（08.10.10）第71号（08.11.27）第72号（09.4.20）

（5）クラフトの販売

09年のモン・カレンダーを各団体や会員の皆さんの協力を得て完売することが出来ました。また、引き続きタイ・カンボジアのクラフトを販売しています。

9 15周年記念事業の総括と「国際ボランティア貯金」配分金事業の継続した実施について

（1）15周年記念事業の経過と総括について

①第1回バンコク研修事業

派遣スタッフ

講師 加藤啓子 氏（絵本いろいろの会）

徳永和美 氏（カウンセリング・スペース・リヴ）

合田由紀子 氏（はっぴいポケット）

スタッフ 松尾純代（大阪マイペンライ）

第1回打ち合わせ会議 3月24日（月）

第2回打ち合わせ会議 4月25日(金)午後 松尾久美さん出席

バンコク研修事業の日程

5月20日 関空早朝出発

5月20日 現地視察・打ち合わせ・研修準備

5月21日～22日 スタッフ研修 5月23日～25日 全体研修・総括会議

5月26日(月)早朝帰国

保育・あそびの研修スケジュール

研修対象	日	時	内容
シーカーアジア財団 (図書館と保育園のスタッフ) 26人	5月 21日 (水)	9:00～10:00	日本の子育て環境の変化
		10:00～11:00	0・1・2歳の育ち
		11:00～11:15	休憩
		11:15～12:15	3・4・5歳、学童期の育ち
		12:30～13:30	昼休憩
		13:30～15:00	手作りおもちゃを作ろう・あそぼう
		15:00～15:30	休憩
		15:30～16:30	手作りおもちゃを作ろう・あそぼう
	16:30～17:00	研修まとめ	
	22日 (木)	9:00～12:00	絵本の読み方・楽しみ方
		12:00～13:00	昼休憩
		14:00～15:15	手作り絵本を楽しもう
		15:15～17:00	作った自分の絵本をみんなに披露

研修対象	日時	内容	
バンコクのスラム等の 保育園〔60箇所〕保育士 対象 71人	5月 23日 (金)	10:00～11:00	日本の子育て環境の変化
		11:00～12:00	0・1・2歳の育ちと楽しむおもちゃ
		12:00～13:00	昼休憩
		13:00～14:30	3・4・5歳の育ちと楽しむおもちゃ
		14:30～15:00	休憩
		15:00～16:00	学童期の育ち
		16:00～17:00	研修まとめ
	24日 (土)	8:30～12:00	手作りおもちゃと子どもとも に楽しむあそび
		12:00～13:00	昼休憩
		13:00～15:00	絵本の読み方・楽しみ方
		15:00～15:30	休憩
	25日 (日)	15:30～16:30	研修まとめ
		8:30～12:00	手作り絵本
		12:00～13:00	昼休憩
		13:00～15:30	手作り絵本・出来た絵本の紹介
		15:30～16:00	休憩
	16:00～17:00	修了証書の授与と研修のまとめ	

シーカーアジア財団のスタッフを対象に行った二日間、後半の3日間は前半の受講生のうち数人が研修のサポート役を務め、研修内容を自らの質の向上に積みあげる機会となった。

前半の26人には、北タイ・南タイ、チュアパーンスラム・スワンプルースラムのシーカアジアザイダンのスタッフなど、シーカ・アジア財団のスタッフが10時間以上の夜行バス、ミャンマー難民キャンプ事務所のスタッフは7～8時間の夜行バスで参加し、大阪マイペンライとして懐かしいなじみの顔が集まった。後半は初めて出会う顔ばかりであったが、タイの絵本作家が二人、聴覚障害児が通う幼稚園スタッフも参加した。

受講生たちは、廃材を活用しての手作りおもちゃや多種多様な絵本に驚き興味深く研修に参加し、一人一人がおもちゃをつくり、作ったものでみんなであそびを楽しんだ。絵本の楽しさも実感したようで、「あの絵本がほしい、どのようにすれば購入できるか」の意見が相次いだ。終了後のアンケートにも、受講者の研修を評価する意見が相次ぎ、国際ボランティア貯金と大阪マイペンライの予算をつぎ込んだ研修は大成功に終わった。

②第2回ターソンヤン郡研修事業

打ち合わせ会議 7月19日(土) 9月13日(土)

講師 加藤啓子氏、南田安紀子氏、奥村仁美氏
 スタッフ 松尾純代、増田和生
 同行 SVAタイランド 松尾久美氏ほかスタッフ日程
 10月13日(月) 関空早朝発、バンコク着・発 スコタイ空港着
 移動、打合せ
 14日(火) ターソンヤン郡の保育園・小学校視察、研修準備
 15日(水)～17日(金) 研修
 18日(土) 総括会議、バンコクへ移動
 19日(日) バンコク・スラム地区見学、SVAスタッフとの意見交換
 バンコク深夜発
 20日(月) 関空早朝着

研修内容

	主なテーマ	内 容		講 師
1	子どもの育ち (生活とあそび)	①	0・1・2歳	
		②	3・4・5歳	
		③	学童期	
2	子どものあそび	①	手作りのおもちゃ 廃材を使って(ペットボトル・牛乳パック)	
		②	一緒に楽しむ遊び	
3	絵本の楽しさを感じる	絵本を読んでもらう		
4	絵本を語るとは	絵本を語るときの注意		
5	手作り絵本(自分で絵本 を作る)	絵本作り		

タイ・ターソンヤン郡研修事業報告

13日午後遅くには、バンコクから車2台で7時間あまりをかけてやってきたシーカ・アジア財団スタッフと合流し、15日からの研修の打合せをした。

研修受講者たちの仕事内容の理解を図るため、14日は様々の立場の子どもたちの幼児教育の現場と学校現場を訪問した。ターソンヤン郡の住民の90%以上が、タイ国籍を持つカレン族の人々で、山に点在して暮らすカレンの子どもたちは教育環境が補償されず、義務教育である小・中学校さえも継続できない状況である。また、ミャンマーとの国境の町であるなかタイに移住して仕事に従事しているミャンマー国籍の人々も多く、彼らの子どもたちへは国際NGOが教育の機会を提供しており、その教育現場も訪問した。今回訪問はしなかったが、近くにはミャンマーから逃れてきた難民のキャンプがあり、その中では10数万人のカレン族が難民として暮らしている。事前に見学をしたことは、研修受講者の仕事内容を少し理解する機会となり、同時に子どもたちを取り巻く生活環境の厳しさに驚きと憤りを感じるようになった。

15日から3日間は、研修現場の学校で受講者の受付や研修準備、研修、片付け、翌日の準備など、朝7時30分から夕方6時ころまでシーカ・アジア財団のスタッフと一緒に目いっぱい行動する日々で、このシーカの職員とともに共同生活は、研修をともに実施しているという一体感を感じさせてくれるもので有意義な体験でした。

そして研修会はというと、廃材を使っての手づくりのあそびの経験がなく、絵本との出会いもほとんどない研修生120人にとって、驚きと興味津々の体験であったようです。それも恥ずかしがりやでシャイなカレンの人々は、驚きや興味がなかなか表面化せず、我々実施する方はニーズに応えられない研修ではなかったかと1日目はドキドキでした。しかし2日目・3日目になると徐々に反応が目に見えてくるようになり、アンケート集約では大きく評価する意見が出され、ニーズに応えた研修であったとほっとしました。

シーカ・アジア財団は、アルニー事務局長を筆頭に8人のスタッフが参加。そのうちの一人は、2007年10月から静岡で日本語を学び、8月9月と大阪で研修を受けたムアイスタッフでした。研修の司会役で全体をうまくリードし、開始前・合間には様々な手あそびで研修生の気持ちをほぐすなど、上手な司会役に驚きました。また、3人の20代前半のスタッフは、5月のバンコク研修会でバンコクのスタッフとして、全体研修のサポート役を担ったスタッフで、5月以降バンコク市内で絵本のワークショップの講師も担い、自信を持ち丁寧なサポート役を行っていました。また、大阪にも来日したことのなるクロントイ図書館のソムサクスタッフは、5月に学んだ面展台作りを今回は、自らが講師として指導していました。

5月に引き続いた研修でしたが、研修生の仕事環境・生活背景は大きく異なることから、ニーズに応える研修内容をどのように創造して企画すればいいのかの難しさを実感した研修でもありましたが、研修を重ねたス

スタッフの質の向上と自信を持ってサポートする・指導する姿にシーカ・アジア財団のスタッフにとって大きくエンパワーする機会になったことは確信が持てた。

③教材・機器の購入設置について

パソコン、音響機器について7月に購入設置完了

④絵本・絵本箱の設置について

絵本40冊のセット(箱入り袋つき)を15ヶ所、20冊セット(袋入り)を40ヶ所、合せてターソンヤン郡の55ヶ所の保育園、小学校に絵本を配布しました。さらに、全個所に1台ずつダンボールの絵本面展台を配布しました。

⑤図書コーナーの設置について

バンコクの2カ所およびターソンヤン郡の保育園1ヶ所ずつに設置した。

バンコクの図書コーナー設置地区2箇所は、クロントイの近くにあるスラムで、厳しい生活を実感できる地域であり、図書館がなかったこと、学校に通えない子どもがいてサポートできていないことなどが訪問することでわかった。保育・教育を支えるNGO組織があるところ、ないところとの違いを実感することになった。

ターソンヤン郡の実態を見て、同じタイ人として何かをしなければと思ったシーカアジア財団ですが、バンコクの他のスラム実態でも移動図書館活動だけではない、シーカとしての役割を改めて模索する機会になっているのではと思えた。

⑥15周年記念事業モニタリングツアーの実施について

日程 2009年2月4日(水)～2月10日(火)早朝

コース 西タイ(バンコクでの視察、ターク県ターソンヤン郡の村の保育園の視察、交流)

参加者 国松祐子さん(子ども情報研究センター)

松尾純代(大阪マイペンライ)

日程 2月 4日(水) 関空発TG623 ターソンヤン郡着

5日(木) 研修参加者との意見交換会議、ターソンヤン郡の保育所視察

6日(金) ビルマ人移住労働者の学校など視察

7日(土) クロントイ事務所、研修参加者との意見交換会議、保育所視察

8日(日) シーカ・アジア財団の活動視察など

10日(火) 早朝帰国

(2)「国際ボランティア貯金」配分金事業の新たな実施について

①「国際ボランティア貯金配分金」への申請の結果について

配分された総額 6,934,000円

内訳 「少数民族の初等教育整備のための学生寮建設及び保育園の改修〔タイ〕」

3,405,000円 申請額 4,042,300円

「スラム地区、少数民族居住地区の保育園・図書館スタッフのスキルアップ研修の実施及び保育・幼児教育センターの設置〔タイ〕」

3,529,000円 申請額 5,017,000円

研修センター設置並びにスラム・農村での研修事業 事業計画

1 目的

タイ国内のスラム地区および少数民族の居住地域の保育園および図書館における保育・教育・図書館事業の充実をめざす。そのために、現地のNGOと連携し、保育園・図書館スタッフのスキルアップを図るための研修事業を昨年に引続き実施する。また、現地スタッフによる自立的な研修や情報提供、教材提供など今後の定着を図らせるため、「保育・幼児教育研修・教材センター(仮称)」を設置し、自立した研修事業の継続・運営を目指す。

また、これらに対して地域の青少年へ研修への参加を呼びかけ、将来の保育・教育の担い手としての期待される人材の育成を図ることを目指す。

2 現地の状況

タイは東南アジアの中で経済的な発展を遂げているが、都市と農村の格差、富裕層と貧困層との格差が存在する。大都市の中においてもスラム地区が存在しており、経済的な理由から子どもたちの教育・保育の機会、絵本などに接する機会が奪われています。そのような中で、子どもたちが幼い頃から友だちとあそびを共有し、想像力や思考力を積みあげるあそびの活動の場として保育園や図書館活動の提供が重要となっています。

現地のNGOが運営する保育園や図書館において、NGOスタッフ自身が休日や夜に保育・教育者養成学校に通い努力を重ね、子どもの保育・教育保障に努めているが、実践力を高める機会が乏しく、活動を活性化するにいたっていない。

数年来の当会による招聘研修において、絵本の楽しさを保育・教育者自身が感じる機会と手作り絵本の講座を体験する機会を設けたことにより、自分で絵本をつくるという活動を知り、自らの生活を自ら絵本に再現する喜びを

得、少しずつ手作り絵本活動が広がってきている。

また、これらを通じてNGOのスタッフは、①子どもと共に活動することの重要性、②生活の中の廃材を活用することで子どもたちに必要な教材が確保できること、③届けられる絵本だけでなく、自らで絵本を作り出せることを実感してきている。これらの状況は各地の保育園・図書館スタッフへと広がりつつあるが、まだ不十分で、スラム地区や地方のスタッフに対する保育・教育の実践研修の機会を作る必要性を痛感している。

特に、地方の少数民族の子どもたちが通う保育園・図書館スタッフへの研修の機会は少なく、スタッフ間の交流も少ないなかで、保育・教育力を高めたいというニーズが高まっている。

3 全体の事業

(1) 現地のNGOと連携した保育士・図書館スタッフを対象とした研修事業の実施。

バンコクとターソンヤン郡での研修会の各1回の実施。

タイの保育園・幼稚園では、生活面の指導と共に、3歳くらいからドリルを活用して子どもに教えるという保育内容が多くを占め、子どもと保育者が共に遊び、遊びを通じて子どもに育つ力を積みあげるといふ保育観が弱いといえる。当会の招聘研修で彼らは、大阪の保育・教育現場を訪問し、保育・教育システムと共に、保育所や幼稚園現場で保育者の子どもへのかかわり、子どもと共に遊ぶ姿に驚きの声を発する。

また、タイの保育園・図書館の保育・教育教材は厳しい実情だが、生活の廃材を活用するという視点はなく、大阪での牛乳パック・ペットボトル・新聞紙などを活用しての教材作りに毎年招聘スタッフが驚嘆する。また、絵本は購入する高価な教材であるという認識で、自分たちでも絵本が作れるという意識は少ない。

これらの実情や研修の継続の要望を踏まえ、「子どもの育ち(生活とあそび)、子どもの遊び(手作りのおもちゃ、一緒に遊ぶ)、絵本の楽しさを感じる、絵本を語るとは、手作り絵本」などのテーマで研修事業を企画する。

2008年5月・10月のバンコク・ターソンヤン郡においての研修実施は、現地ニーズに応える内容のものであり、参加者の評価は高かった。しかしながら、参加したい保育・教育者の数はとても多く、参加者を制限したため受講したくても参加できなかった保育教育者を作ってしまった。

現地NGOのスタッフは、2008年度の研修で質を大いに高める機会となったが、08年度に再度参加できなかった人を踏まえて、09年度実施することとし、そのことでより一層NGOスタッフの自立につながると考える。

(2) 「保育・幼児教育研修センター(仮称)」の設置(改装)

タイのスラム地区や農村の保育園・図書館においては絵本や保育・教育に必要な教材が不足しており、一方、手作り絵本の手法、生活の廃材である牛乳パックや新聞紙などを活用しての教材作りなどの知識、ノウハウを日々の保育実践などに導入したい要望が強い。

08年度のバンコクでの研修後、バンコク内やタイ各地から情報や教材を求めて、現地NGOの事務所を訪問したり、連絡を入れる保育・教育関係組織や保育・教育者が多く生まれており、ニーズや期待感の高さが伺われる。

これらニーズに応えるべく、バンコクのNGOの事務所に「保育・幼児教育研修・教材センター(仮称)」を設置し、保育・幼児教育のさまざまな情報及び知識・教材などの発信地とし、かつターソンヤン郡も含む国内の活動の中心地とする。

高いニーズのある分野であると同じに、スラム地区においてはまだ整備されていない分野でもある。

4 事業の対象地域

(1) 対象国 タイ王国

(2) 地域 バンコク都内 スラム地区 保育園・図書館
ターク県ターソンヤン郡 保育園・図書館

5 実施時期

- (1) 「研修センター」の設計・改装・教材購入 2009年4月～
- (2) 「研修センター」の広報 2009年5月～
- (3) 「研修センター」の完成・運営開始 2009年6月
- (4) バンコク第1回研修事業 2009年8月～9月
- (5) ターソンヤン郡第2回研修事業 2009年12月
- (6) 研修会実施及び「研修センター」運営開始後のモニタリング 2009年12月

6 具体的な事業の内容

(1) 保育士・図書館スタッフを対象とした研修事業(2回)

①研修の内容と講師の派遣

テーマ:子どもの育ち(生活とあそび)、子どもの遊び(手作りのおもちゃ、一緒に遊ぶ)、

絵本の楽しさを感じる、絵本を語るとは、手作り絵本

講師:子どもの育ち・子どもの遊び 2名

絵本の楽しさを感じる・絵本を語るとは・手作り絵本 2名

②教材

絵本、折り紙、ケント紙、ボンド、廃材(牛乳パック・ペットボトル)、ほか

③研修対象スタッフの移動、滞在経費への援助

実施場所:バンコク 研修参加者 予定 80名

実施場所:ターソンヤン郡 研修参加者 予定 100名

- ④現地 NGO への事前調整、研修会運営の委託
現地調整、事前広報、会場確保、資料作成、通訳

(2) 研修センターの設置

設置場所・バンコク クロントイ区 シーカーアジア財団事務所敷地内
設計、資材調達、教材購入、絵本購入（保育園補充用）、パソコン購入、ほか
研修センターの運営：シーカーアジア財団に委託する。

(3) 研修会を事業実施後のモニタリング

2 回の研修事業の実施後の保育園の運営状況についての検証、研修センターの運営開始後の調査のため、モニタリングツアーを実施する。

タイの農村における学生寮建設などの教育環境改善事業 事業計画

1 目的

タイのターソンヤン郡のこれら地域の子どもたちの教育環境の改善を目指し、就学前の子どもたちが集まる保育園の環境改善を目指すとともに、遠距離通学を余儀なくさせている子どもたちのための就学環境の改善を目指す。

2 現地の状況

(1) タイの少数民族の状況

タイには文化出自の異なる民族が多数存在し、多くは北部の山岳地帯に暮らしている。ミャンマー、ラオスあるいは中国雲南から尾根伝いに移動しながら海拔 1000m 級の山々の斜面において焼畑耕作を行い生活してきた。1970 年代からタイ政府は彼らに対し平地への定住化を促し、土地を分譲してきたが、タイ国籍の取得は困難な状況となっている。

教育面では、独自の母語を持つ彼らにとって小学校から突然始まるタイ語教育についていけず退学をするケースなども多くあった。現在では、小学校就学以前にタイ語学習の機会を設けることで改善がされてきている。しかし、なお教育が不十分である割合は一般のタイ人より多く、就職が困難になるなど社会の中でハンディを負い、各地で定める最低賃金さえ保障されない職場で働かざるを得ない状況を強いられている。このように教育及び雇用での問題を負わされてきた少数民族の人びとは未だ残る偏見や差別視にさらされている。このため若い世代が自らの文化や言葉をも否定するに至るアイデンティティに関わる問題は、近年の IT 化の中、さらに深刻化していると言える。

(2) タイ・カレン族の人々

ミャンマー国境沿いに位置するターク及びメーホンソンなどの 6 県にはタイ・カレンと呼ばれる人びと、すなわちタイ国籍を持つカレン族の人びとが多く暮らしている。特にターク県では人口の 8 割を占める。彼らは約 35 万人の人口を擁し、タイ国内に存在する 8~9 の少数民族の中で最大規模を誇る。カレン族全体ではミャンマー東部のカレン州やカヤ州を中心に 3 百万の人口を擁する。18 世紀末頃からミャンマーでのカレン族迫害が激しくなったことによりサルウィン川を渡ってタイに流入し定住することとなった。

(3) ターク県ターソンヤン郡の教育、保育環境

ターク県ターソンヤン郡は西部に長いミャンマーとの国境線を持ち、面積が約 1600 km²、人口 9 万 9000 人を擁する。同郡の大部分は高地であり 7 つの行政区に属すカレン族の村々が山の中に点在する。現在、小学校 20 校、中学校 9 校、高校 1 校が行政により運営されている。ここ数年のあいだに小学校については整備が進んできたものの、中心部から遠く離れた 200 人規模の村の多くでは小学校 6 年間の教育を提供するに至らず、3 年生以上は他村の学校に通うため寮に入らなければならない。こういった村の子どもたちの約 3 割が小学校高学年に進学せず家に留まり農作業の手伝いをしている。中学生に至っては、さらに登校できる範囲は狭まり高校に至っては論外である。このターソンヤン郡において高校に通学しているのは 167 名に過ぎない。高校へは日帰りができず、かといって寮生活の費用負担は厳しいため進学を断念する生徒がほとんどである。また、30 歳以上の住民の多くがタイ語の識字能力がなく、45 歳以上の大部分がタイ語を一切解さないことがわかった。

また、保育園の状況を見ると、ターソンヤン郡の 6 つの行政区内には 33ヶ所保育園があるが、そのうち 22ヶ所がメーソン地区に属している。これはメーソン地区が人口が小規模の村々が山岳地に点在しているため、ひとつの行政区に園数が多いことから他地区に比べ運営費用供給が滞り、とりわけ子どもたちの生活の場である施設の補修は後回しにされている状況である。このため、保育園の施設の老朽化ともあいまって、子どもの日常的な生活の場が劣悪なまま放置されている状況である。

3 全体の事業

(3) 学生寮の建設

ターソンヤン郡において、初等教育の場の保障が未整備な状況の中で、緊急のニーズとして、自宅から通学可能な距離に学校がないことにより就学の機会を奪われている子どもたちのための学生寮を建設する。

対象校は、チュムチョンバーンターソンヤン幼稚園・小・中学校。生徒数は 1200 人以上。多くの村々のある山のふもとにある学校であり、現在ある寮には小 1~中 3 までの寮生約 200 人が所属している。寮を新たに建設することによって、約 100 名の生徒・学生が就学できる見込みである。寮設置後の運営は学校が担う。当地域のモデルとなる学生寮を造ることで、さらに行政に対して教育環境改善の支援を促していく。

(4) 保育園の生活環境の改善のための、特に劣悪な環境にある保育園の改修

ひとつの行政区に園数が多いことから他地区に比べ運営費用供給が滞り、子どもたちの生活の場である施設の

補修は後回しにされている状況にある、ターソンヤン郡のメーソン地区にある保育園 22 ヶ所のうち、施設・設備が特に劣悪な状況にある保育園 3 ヶ所について、改装・改修を行う。

4 具体的な事業の内容

- (1) 学生寮の設計・資材の調達・建設ほか
- (2) 改修する保育園の選定
- (3) 保育園の改修設計・資材の調達・改修ほか
- (4) 学生寮の入寮者の選定等運営要綱の制定
- (5) 学生寮あるいは保育園スタッフの招聘研修

5 事業の対象地域

- (1) 対象国 タイ王国
- (2) 地域 ターク県ターソンヤン郡 保育園、小学校、中学校

6 実施時期

- (1) 学生寮の設計 2009年4月
- (2) 保育園の選定 2009年5月
- (3) 学生寮の建設開始 2009年6月
- (4) 保育園の改修設計・完成 2009年10月
- (5) 学生寮の完成 2009年12月(予定)

10 その他

第2号議案 2008年度決算と2009年度予算案

2008年度一般会計決算報告(2008年4月1日～2009年3月31日)

収入の部

項目	内 訳	本年度収入額	昨年度収入額
会費	個人会費	234,000	242,000
	団体会費	510,000	560,000
助成金	助成金	0	0
事業収入	セミナー参加費	150,000	150,000
	招聘研修参加費	155,000	125,000
	物品売上	1,142,620	1,474,360
雑収	雑収	1,098	2,062
	寄付	405,000	22,000
	当年度収入小計	2,597,718	2,575,422
繰入金	繰入金	888,187	3,085,922
繰越金	繰越金	637,998	1,008,692
	収入合計	4,123,903	6,670,036

支出の部

項目	内 訳	本年度支出見込額	昨年度支出額
運営費	総会費	51,600	98,940
	通信費	242,232	197,680
	需要費	38,472	39,132
	事務局費	0	33,025
事業費	招聘研修	1,228,341	1,267,247
	子どもスタディツアー	231,112	170,576
	絵本プロジェクト	0	258,300
	交流費	49,452	42,802
	スタディツアー	170,000	160,600
	クラフト事業費	719,478	1,359,459
雑費	雑費	2,370	2,210
	当年度支出小計	2,733,057	3,629,971
繰出金	繰出金	1,314,187	2,617,980
	支出合計	4,047,244	6,247,951

2009年度一般会計予算案(2009年4月1日～2010年3月31日)

収入の部

項目	内 訳	本年度予算額	昨年度予算額
会費	個人会費	260,000	250,000
	団体会費	550,000	560,000
助成金	助成金	0	0
事業収入	セミナー参加費	150,000	150,000
	招聘研修参加費	180,000	150,000
	物品売上	1,520,000	1,500,000
雑収	雑収	1,000	1,000
	寄付	400,000	100,000
	小計	3,061,000	2,711,000
繰入金	繰入金	1,000,000	2,500,000
繰越金	繰越金	76,389	637,998
	収入合計	4,137,389	5,848,998

支出の部

項目	内 訳	本年度予算額	昨年度予算額
運営費	総会費	60,000	80,000
	通信費	230,000	250,000
	需要費	35,000	80,000
	事務局費	5,000	10,000
	事業費	招聘研修	1,250,000
	子どもスタディツアー	100,000	50,000
	絵本プロジェクト	200,000	250,000
	交流費	150,000	0
	スタディツアー	50,000	150,000
	クラフト事業費	650,000	650,000
雑費	雑費	0	1,000
	小計	2,730,000	2,821,000
繰出金	繰出金	1,400,000	2,800,000
予備費	予備費	7,389	227,998
	支出合計	4,137,389	5,848,998

サワディ基金収支報告書(2008年4月1日～2009年3月31日)

収 入

項目	内 訳	金 額(円)	備 考
繰越金		3,720,145	
寄 付	大阪府教組よりの寄付	100,000	
そ の 他	利子	5,056	
合 計		3,825,201	

支 出

項目	内 訳	金 額(円)	備 考
事 業 費	奨学金	0	
繰出金		1,750,000	
繰越金		2,075,201	
合 計		3,825,201	

サワディ基金収支予算書(2009年4月1日～2010年3月31日)

収 入

項 目	内 訳	金 額(円)	備 考
繰 越 金		2,075,201	
寄 付		100,000	
そ の 他	利子	4,000	
合 計		2,179,201	

支 出

項 目	内 訳	金 額(円)	備 考
事 業 費	奨学金	0	
繰 出 金	国際ボランティア貯金事業への繰り出し	500,000	
繰 越 金		1,679,201	
合 計		2,179,201	

サワディ基金会計報告

2009年度1月現在

単位:パーツ

項 目	収 入	支 出	合 計
2007年度末残金			477582.22
2008年奨学金		60000	417582.22
2008年度利子	14232.81		431815.03
2009年1月現在			431815.03

絵本プロジェクト収支報告書(2008年4月1日～2009年3月31日)

収 入

項 目	内 訳	金 額(円)	備 考
繰 越 金		284,559	
一般会計よりの繰入金		0	
利 子	利子外	55	
合 計		284,614	

支 出

項 目	内 訳	金 額(円)	備 考
事 業 費		0	
ボランティアグループへの補助	3万円×5カ所	150,000	
繰 越 金		134,614	
合 計		284,614	

2009年4月23日

アジア保育教育交流推進実行委員会(大阪マイペンライ)代表 森 みどり 様

会計監査

田村 賢一 ㊞

山下 裕子 ㊞

2008年度大阪マイペンライ一般会計決算の監査結果について

大阪マイペンライの2008年度一般会計について2009年4月23日に監査した結果について、以下のとおり報告します。

記

1 会計期間 2008年4月1日から2009年3月31日

- 2 監査の資料 ①支出・収入命令書つづり
 ②金銭出納一覧表
 ③項目別支出・収入額一覧
 ④預金通帳・郵便振替通知書

3 監査の結果

上記の期間における収入・支出の執行、出納など事務管理は概ね適切になされていると認めます。

第3号議案 2009年度役員体制（案）

役 職	名 前	所 属
代 表	森 み ど り	個 人
副 代 表	小 栢 幸 江	大 阪 府 教 職 員 組 合
副 代 表	高 橋 定	部 落 解 放 同 盟 大 阪 府 連 合 会
副 代 表	小 田 晃 之	自 治 労 大 阪 府 本 部
事 務 局 長	稲 葉 貞 夫	個 人
事 務 局 次 長	生 駒 美 登 里 → 大 西 智 子	大 阪 府 教 職 員 組 合
事 務 局 次 長	松 尾 純 代	個 人
事 務 局 次 長	増 田 和 生	個 人
兼 会 計 幹 事	松 尾 純 代	個 人
幹 事	竹 野 起 代	自 治 労 大 阪 府 本 部 保 育 部 会
幹 事	中 島 啓 治	自 治 労 大 阪 市 職 民 生 支 部
会 計 監 査	田 村 賢 一	カ ン ボ ジ ア に 絵 本 を 送 る 富 田 林 連 絡 会
会 計 監 査	山 下 裕 子	子 ども 情 報 研 究 セ ン タ ー

運営委員 前川 実、中島美智子、山下淳子、田中寿美子、中島仁美（新）、松尾久美（休会中）

実務分担（★は責任者）

会計処理 ★ 松尾純代、稲葉貞夫 通信発行 ★ 稲葉貞夫、松尾純代、
 会議資料作成 ★ 稲葉貞夫、松尾純代 スタディツアー ★ 高橋定、松尾純代、稲葉貞夫
 招聘研修・セミナー ★ 松尾純代、高橋定、小田晃之、稲葉貞夫
 絵本プロジェクト ★ 中島美智子、田中寿美子、山下淳子
 クラフト販売 ★ 中島美智子、松尾純代、保坂一枝 子どもスタディツアー ★ 松尾純代、中島美智子

退任する役員：根来敦子さん、生駒美登里さん、保坂一枝さん

第4号議案 「国際ボランティア貯金」配分金による2つの事業にかかる特別会計の設置について

(1) 学生寮建設などタイの農村における教育環境整備事業特別会計予算案

収入の部

(2009年4月1日～2010年3月31日)

項目	内 訳	本年度予算額
助成金	国際ボランティア貯金配分金	3,405,000
雑収	寄付金	400,000
繰入金	サワディ基金からの繰り入れ	100,000
	一般会計からの繰り入れ	100,000
	収入合計	4,005,000

支出の部

項目	内 訳	本年度予算額
旅費	専門家派遣旅費	392,000
	現地スタッフ交通費	72,000
人件費	専門家日当	0
	専門家滞在費	84,000
	現地スタッフ・作業員雇用費	126,000
	通訳雇用費	42,000
	現地スタッフ日当	16,000
学生寮建設費	建設費・建造物工事費	1,728,000
保育園改修費	保育園改修工事費(3園)	945,000
小計	(配分金計)	3,405,000
その他経費	その他所要経費(団体負担)	600,000
	支出合計	4,005,000

少数民族の初等教育整備のための学生寮建設および保育園の改修[タイ]

配分額 3,405 千円

学生寮建設費・建造物工事費(整地、設計、建築一式)	1,728,000 1式	1,728 千円
人件費現地スタッフ・作業員雇用費(120人日)	700円×120人日	84 千円
改修工事費(3箇所)	315,000円×3か所	945 千円
人件費現地スタッフ・作業員雇用費(60人日)	700円×60人日	42 千円
日本人専門家航空運賃(日本-タイ:2人×1回)	98,000円×2人×1回	196 千円
日本人専門家滞在費(2人×7日)	3,000円×2人×7回	42 千円
人件費現地スタッフ日当(2人×7日)	600円×2人×7回	8 千円
人件費現地スタッフ・通訳日当(7日)	3,000円×7日	21 千円
現地交通費(ガソリン代)	36,000円×一式	36 千円
日本人スタッフ航空運賃(日本-タイ:2人×1回)	98,000円×2人×1回	196 千円
日本人スタッフ滞在費(2人×7日)	3,000円×2人×7回	42 千円
現地スタッフ日当(2人×7日)	600円×2人×7回	8 千円
人件費現地スタッフ・通訳日当(7日)	3,000円×7日	21 千円
現地交通費(ガソリン代)	36,000円×1式	36 千円

(2) 研修センター設置並びにスラム・農村での研修事業特別会計予算案

収入の部

(2009年4月1日～2010年3月31日)

項目	内 訳	本年度予算額
助成金	国際ボランティア貯金配分金	3,529,000
雑収	寄付金	100,000
繰入金	サワディ基金からの繰り入れ	400,000
	一般会計からの繰り入れ	100,000
	収入合計	4,129,000

支出の部

項目	内 訳	本年度予算額	
旅費	専門家派遣旅費	692,000	
	専門家現地スタッフ交通費	72,000	
	現地交通費	18,000	
人件費	専門家日当	144,000	
	専門家滞在費	168,000	
	現地スタッフ研修宿泊費	150,000	
	通訳雇用費	42,000	
	現地スタッフ日当	60,000	
	会場費	27,000	
	資料作成費	216,000	
	研修センター設置	改修工事費	630,000
		運営費	126,000
		参考図書購入費	180,000
		絵本等購入費	473,000
		パソコン	153,000
		広報誌カタログ作成費	126,000
		ウェブ作成費	72,000
	現地スタッフ雇用費	180,000	
小計	(配分金計)	3,529,000	
予備費	予備費	600,000	
	支出合計	4,129,000	

スラム地区、少数民族居住地区の保育園・図書館スタッフのスキルアップ研修の実施及び保育・幼児教育センターの設置〔タイ〕 配分額 3,529千円

日本人専門家・スタッフ航空運賃(日本-タイ: 4人×1回)	75,000円×4人×1回	300千円
日本人専門家・スタッフ航空運賃(日本-タイ: 4人×1回)	98,000円×4人×1回	392千円
日本人専門家・スタッフ滞在費(4人×7日×2回)	3,000円×4人×7日×2回	168千円
日本人専門家日当(3人×8日×2回)	3,000円×3人×8日×2回	144千円
日本人専門家現地交通費(ガソリン代)	18,000円×1式	18千円
研修会宿泊費(500人)	300円×500人	150千円
研修関係費(会場費: 2箇所)	13,500円×2か所	27千円
研修関係費(資料作成費・教材購入費: 80人×2回)	1,350円×80人×2回	216千円
現地交通費(ガソリン代)	72,000円×1式	72千円
人件費現地スタッフ・研修会準備、運営補助スタッフ日当(10人×5日×2回)	600円×10人×5日×2回	60千円
人件費現地スタッフ・通訳日当	3,000円×7日×2回	42千円
研修センター設置・運営費(改修工事費1式)	630,000円×1式	630千円

研修センター設置・運営費（教材購入費 1 式）	126,000 円×1 式	126 千円
研修センター設置・運営費（参考書籍等購入費 1 式）	180,000 円×1 式	180 千円
研修センター設置・運営費（保育園補充用絵本購入費：15 冊×50 か所）	630 円×15 冊×50 か所	473 千円
研修センター設置・運営費（データ処理用パソコン購入費）	153,000 円×1 式	153 千円
研修センター設置・運営費（広報紙、カタログ作成費）	126,000 円×1 式	126 千円
研修センター設置・運営費（ウェブ作成経費）	72,000 円×1 式	72 千円
現地スタッフ雇用費（12 か月）	15,000 円×12 月	180 千円

アジア保育・教育交流推進実行委員会申し合わせ（規約）

第1条（名称・事務所）

本会は、アジア保育・教育交流推進実行委員会（略称：大阪マイペンライ）と称し、事務所を大阪市浪速区久保吉1-6-1 2 大阪人権センター内に置く。

第2条（目的）

本会は、1 億人もの学校に行けない子どもたちが存在し、乳幼児死亡率が高いアジア各国のスラムや農村の子どもたちのきびしい現実を直視し、国連子どもの権利条約の精神にのっとり、アジアの各地の民衆教育や児童福祉にかかわる人々との草の根交流とネットワークの形成をめざす。そして、これらの取り組みを通じて、アジア各地の学校や保育所をはじめ地域の教育・生活・福祉の環境を整備し、同時に日本の子どもたちがアジア市民として育まれるよう多文化共生の保育・教育の一層の推進をめざすことを目的とする。

第3条（会員）

本会は、会の趣旨に賛同する個人及び団体でもって組織する。本会に入会を希望するものは、会員の推薦を得て役員会に申し出て承認を得るものとする。

会員は、会費を納め、本会の目的達成に向け、それぞれの持ち場で創意工夫をこらし自発的に活動するものとする。

会費の納入が長期にわたり滞った場合は（2 年以上）、会員継続の意志がないものと見なし、役員会の議決を経て会員名簿から削除し、脱会の手続きを行う。

第4条（会費）

本会の会費は、次の通りとする。

個人会費	年間1 口	3 0 0 0 円
団体会費	年間1 口	1 0 0 0 0 円

第5条（役員）

本会に代表、副代表、事務局長、事務局次長、幹事、運営委員などの役員を置く。役員は総会で選出する。

代表は本会を代表し、会を統括する。事務局長は本会の事務を統括し、日常業務を処理する。事務局次長は事務局長を補佐し、日常業務を分掌する。幹事のうち、1 名は会計業務を分掌する。

第6条（会議及び組織）

本会の運営のため、総会、役員会、事務局会を設置する。

総会は役員会の決議を経て、代表が年1 回以上招集し、事業計画、予算、役員などを決定する。

役員会は代表、副代表、事務局長、事務局次長で構成し、必要に応じて代表が招集し、本会の重要事項を処理する。

事務局は事務局長が統括し、日常業務を処理する。

第7条（活動）

本会の目的達成のために、次の活動を進める。

アジアの保育・教育関係者との相互交流に取り組む。また、アジア各地へのスタディーツアーを企画・実行する。

アジアの保育・教育関係者を日本に招き、現職研修（保育・教育の理論、技能向上）事業に取り組む。

「サワディ基金」を設立し、農村やスラムの保育所、幼稚園で働きながら夜間専門学校に学んで、保母・教師の資格取得を目指す若者達への奨学金を支給し支援する。

機関誌「マイペンライ」などを定期発行する。

その他、目的達成に必要なことがらに取り組む。

第8条（規約改正）

本会の規約は、総会において3 分2 以上の賛同を経て改正することができる。

第9条（財政・会計監査）

本会の財政は、会費、助成金、寄付金、その他でまかなう。

会計年度は4 月1 日から翌年の3 月3 1 日とする。

（付則）

この申し合わせは、1 9 9 3 年4 月7 日より施行する。

一部改正 1 9 9 7 年4 月1 1 日

一部改正 2 0 0 3 年6 月1 0 日